

湛水土中(カルパー)直播栽培特報 第3号

令和3年6月
富山市農業協同組合
富山農林振センター

～J A富山市米品質向上生産運動展開中～

- ・ 本年は、播種時に降雨が多く、出芽はやや遅くなりましたが、苗立は平年並で、順調に生育しています。
- ・ 今後、茎数は急激に増加することが予想されます。早急に『溝掘り』を行い、その後は『中干し』を実施して、稲体および根の健全化を図りましょう。

溝掘り

○効率的な入排水や、ほ場内の均一な生育管理を行うため、**中干しに入る前に必ず溝掘り**を行いましょ。 (**6月上旬までに設置**)

<溝掘りのポイント>

- ・ 形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、ひたひた水程度まで再入水して溝を掘る。(溝掘り直後に落水する！)
- ・ 溝と水尻は確実に連結する。
- ・ 水の切れないほ場では設置本数を増やす。

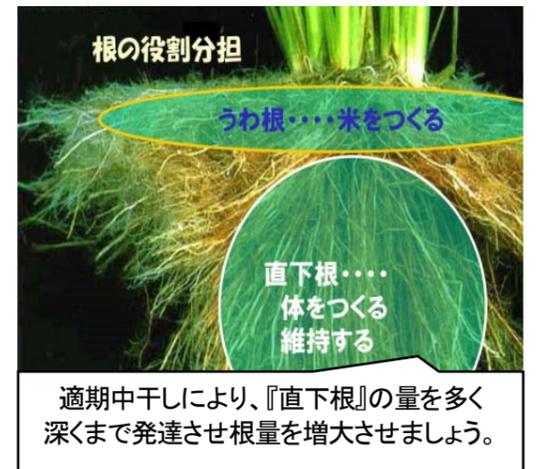
中干し

○**茎数100本/m(6.5葉期頃)を確保した時点**(目安:5月初旬の播種で6月10日頃～)で遅れずに中干しを行いましょ。

中干し
程度

普通乾田 → 長靴が沈まない程度(3～5日間)の田干し
水はけ悪い田や粘土質田 → 強め(5～7日間)の田干し

○中干し後は、幼穂形成期まで湛水と落水を繰り返す**間断かん水**を行いましょ。



病虫害防除

○「いもち病」(葉いもち) 予防対策として、予防粒剤を散布しましょ。

散布時期	薬剤名	10a当たり 使用量	備考
6月10～15日 (中干し後)	オリゼメート 1キロ粒剤	1kg/10a	散布後4～5日程度は「湛水状態」を保ち、7日間は落水や掛け流しをしない

○カメムシの餌となるイネ科雑草が穂をつけないように、畦畔等の草刈りや除草剤散布を行い、**カメムシ類が発生増殖しにくい環境づくりに取り組みましょ！**

雑草防除

- 藻や表層はく離が発生しているほ場では、**水の入れ換え**を行いましょ。
- 雑草が残った場合は、下表を参考にしながら、草種に応じて除草剤を施用しましょ。**

雑草の種類	使用除草剤	10a当たり 使用量	使用時期	本剤 使用回数	使用上の注意
ノビエのみ	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5kg	播種後25日～ ノビエ4葉期 (但し収穫30日前まで)	2回 以内	散布時には5cm程度の深水で行い、散布後5日間は湛水状態を保つ。
	クリンチャーEW	1000ml (希釈水量:25～ 1000)	播種後10日～ ノビエ5葉期 (但し収穫30日前まで)	2回 以内	ノビエの茎葉部に確実に薬剤が付着するように散布する。 展着剤 を加用する。
ノビエと 広葉雑草	レブラス1キロ粒剤	1kg	イネ2葉期～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)	1回	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。
	アクシズMX1キロ粒剤	1kg	イネ1葉期～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1回	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。
	クリンチャーバスME 液剤	1,000ml (希釈水量:70～ 1000)	播種後10日～ ノビエ5葉期 (但し収穫50日前まで)	2回 以内	落水又はごく浅く湛水した状態で、晴天日を選んで散布し、その後3～4日間は入水・落水をしない。展着剤は加用しない。
	トドメバスMF液剤	1,000ml (希釈水量: 1000)	播種後10日～ ノビエ6葉期 (但し、収穫50日前まで)	2回 以内	落水又はごく浅く湛水した状態で、晴天日を選んで散布し、その後3～4日間は入水・落水をしない。展着剤は加用しない。

※富山県農林水産部「令和3年度 農作物病虫害・雑草防除指針」より一部引用